

肝炎相談支援センター

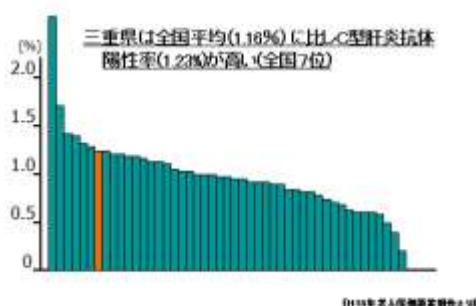
■ スタッフ

センター長		竹井謙之
副センター長		長谷川浩司
医師数	常勤	2名
	併任	3名
	非常勤	4名

■ 部門の特色

本邦においてはB型およびC型を合わせた肝炎ウイルス慢性感染者は実に300万人とも400万人とも言われており、その感染率は先進国においては飛び抜けて多い状況にあります。特に三重県においてはC型肝炎陽性率が全国平均より高いことが指摘されています(図1)。

図1.都道府県別C型肝炎抗体陽性率



国が本格的な肝炎対策事業に乗り出したのが平成20年4月より始まったB型およびC型慢性肝炎患者におけるインターフェロン治療の医療費助成制度であり、もう1つが各都道府県における肝疾患診療連携拠点病院の認定であります。三重県においては平成20年12月12日付けで三重大学医学部附属病院が拠点病院の指定を受け、それに伴い平成21年1月15日病院内に「肝炎相談支援センター」が開設されました。

「三重県内の肝炎患者が検査や診療を受ける上でのサポーター役」と考えています。専用の電話回線を設け、主に肝炎患者やそのご家族からの電話相談を行っています。

また三重県内において一定レベル以上の肝疾患診療を行っている「肝疾患専門医療機関」に対して各医療機関との協議の場として肝疾患専門医療機関連絡協議会を毎年開催し情報交換等を行っています。

更に医療従事者を対象とした研修会や地域住民を対象とした講演会等の開催を行っています。

このような中平成28年6月30日に国の肝炎対策基本指針が改正されました。肝炎対策基本指針改正のポイントは、以下の通りです。

- 1: 方向; 目標は肝硬変・肝がんへの移行者を減らすこと、指標は肝がん罹患率の減少
 - 2: 肝炎検査; 職域での肝炎ウイルス検査の促進に取り組むこと
 - 3: 人材育成; 肝炎医療コーディネーターなどの人材育成の取組みを強化すること
 - 4: 人権尊重; 肝炎患者等に対する偏見や差別の被害の防止に向けた具体的な方策を検討し、取組を進めること
 - 5: その他; 国は、都道府県に対して、肝炎対策に係る計画、目標の設定を図るよう促すこと
- これら改正点を重視し、三重県と連携し新たに対応を行っています。

1. 当センターの主な目的

肝炎診療の均てん化をすすめます。

当センターの役割は適切な検査により肝炎ウイルスに感染している方を1人でも多く見つけ適切な医療を受けて頂くための手助けを行う機関です。そのためには、[肝炎患者-各地域の診療医の先生方-肝疾患専門医療機関]の間を繋ぐ橋渡しの存在としても機能すべきと考えています。

医療従事者および一般の方に広く肝炎の知識を啓蒙して肝炎診療の均てん化を図ります。

■ 診療体制と実績

1. 業務体制

・肝疾患に関する相談支援に関する業務

専用の電話回線を設け、主に肝炎患者やそのご家族からの電話相談を平日の10時~17時までを行っています。肝炎や肝癌治療における相談が多くを占めており、できるだけ現在の肝疾患の診療ガイドラインに則ってアドバイスをしています。

・肝疾患に関する医療情報の収集と提供

当センターからの情報発信は平成21年3月28日と29日の2日間に渡り竹井センター長と新聞記者によるインタビュー形式の「C型肝炎に関する新聞記事」を中日新聞に掲載致したことを皮切りに、当センターのホームページを立ち上げ(<http://www.medic.mie-u.ac.jp/kanenshien/>)、そこに患者さん向けの肝炎に関する簡単な説明のページも設けました。三重大学医学部附属病院のトップページにバナーが付いており、そこからのアク

セスも可能となっています。

・医療機関等との協議の場の設定

三重県内において一定レベル以上の肝疾患診療を行っている医療機関に対し「肝疾患専門医療機関」の認定を三重県が行い、同施設を中心とした各医療機関との協議の場を設定し情報交換を行っています。

図 2. 肝炎治療における病診連携



・医療従事者を対象とした研修会や地域住民を対象とした講演会等の開催

三重大学構内において大学のスタッフや医療行政担当者を対象とした肝炎対策研修会、肝炎患者様を対象とする肝臓病教室を開催しています。また年 1 回日本肝臓学会や三重県、三重県医師会との共催で、広く県民の皆さんに肝炎を中心とした肝疾患に対する理解を深めて頂こうと「肝がん撲滅運動記念後援会」として市民公開講座を開催しています。

2. 診療実績

2019 年 1 月から 12 月における相談件数

検査に関して	2 件
病気の治療に関して	4 件
その他	7 件
合計	13 件

開催市民公開講座:

令和元年 10 月 19 日(津市三重大学)

肝がん撲滅運動 市民公開講座

令和の肝臓病診療 ～めざせ肝がん撲滅～

1. わかりやすい肝臓の話-肝がんにならないために-肝がんといわれたら-
三重大学消化器肝臓内科講師 山本憲彦
2. わかりやすい脂肪肝の話-あなたは大丈夫?-
三重大学消化器内科学助教 杉本龍亮
特別講演

「ゲノム医療は『肝がん撲滅』に貢献するか？」

国立研究開発法人 国立がん研究センター
中央病院 院長 西田 俊朗先生

令和元年年 7 月 23 日 (三重県津庁舎 6 階大会議室三)

令和元年度三重県院内肝炎陽性者拾い上げ講習会

肝炎に関する診療体制及び肝炎患者の実態調査に係る報告と解析
～他県の状況と比較して～

三重大学医学部附属病院 肝炎相談支援センター 長谷川浩司

主催:三重大学医学部附属病院肝炎相談支援センター

令和元年年 10 月 17 日 (三重大学)

メディカルスタッフ・肝炎医療コーディネーター研修会

～肝炎コーディネーターの役割～

パネルディスカッション

「当院の院内肝炎症例の掘り起こしに向けての取り組み」

三重大学医学部附属病院 栄養診療部
石留 真寿美
三重大学医学部附属病院 9 南病棟
近松 佳那
三重大学薬剤部

世古口 典子

講演『最近のトピックス :アルコールと肝臓病』

三重大学消化器内科学教授 竹井謙之

令和元年 11 月 25 日、12 月 2 日(三重大学)

令和元年度全職員向け研修会

医療安全とウイルス性肝炎

三重大学医学部附属病院 肝炎相談支援センター 長谷川浩司

■ 今後の展望

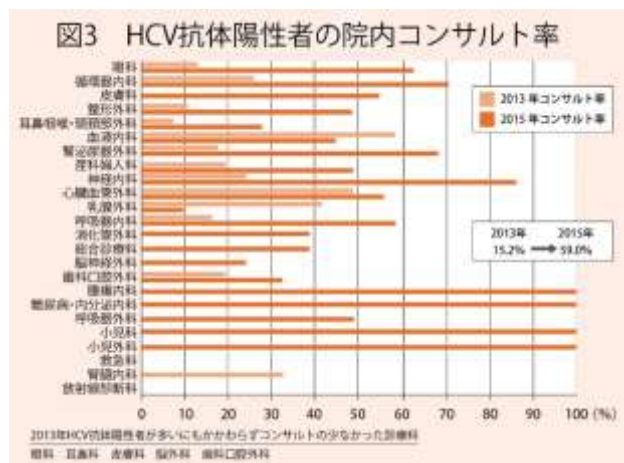
ウイルス肝炎は血液製剤におけるスクリーニング法の確立や母児感染対策事業により新規のウイルス感染者は近年減少傾向にあります。感染者の高齢化に伴う肝発癌率の増加が危惧されています。慢性肝炎の多くは自覚症状に乏しく感染者自身も知らないうちに「肝硬変」や「肝臓癌」に進行することも多く、血液検査による感染者の同

定と感染者に対する適切な医療の提供の必要性が指摘されています。一方、この10年間の肝炎に対する治療法の進歩には目を見張るものがあります。B型肝炎においては経口核酸アナログ製剤の登場によって多くの患者において肝炎のコントロールが可能となり、C型肝炎においてもペグインターフェロン+リバビリン併用療法に始まり DAAs (Direct-acting Antiviral Agents) によって難治といわれる genotype 1b 感染者においても約95%がウイルス排除される時代になりました。

2016年5月31日WHOは2030年までに肝炎ウイルスを根絶させることを目標に挙げ各国に協力を求める採択がなされました。

このような状況ですが、まだ国内には肝炎にかかっているが肝炎に対する検査、治療を受けていない方が大勢みえます。厚生労働省はこのような状況に対して受験、受療率の改善を目標に様々な施策を展開しています。

平成26年に厚労省からの通達周知事項として、手術前検査での肝炎検査の通知の徹底とその後のフォローに対する勧奨があり、当院における2013年の肝炎ウイルス検査の実態評価を行いました。その結果一部の部門での未通知の現状があり、その後のフォロー、コンサルト率向上を目指し、院内 院外での広報活動を展開してきました。



この結果2015年のコンサルト率の上昇を確認しました。(図3)

今後は更にコンサルト率を上昇させるべく、2016年12月導入の mint2 プロジェクトにて肝炎アラートが導入され、コンサルト率が改善傾向にあります。

また新たな肝炎患者の掘り起こしのため、市民公開講座をはじめ啓発活動を展開しています。

肝炎ウイルス陽性者が肝臓専門医へ紹介されない、非肝臓専門医(かかりつけ医)から肝臓専門

医への紹介がなされないといったことによって、せっかくの抗ウイルス療法が導入されないことがあります。

肝炎対策には居住地域による取り組みの違いがみられます。より良い対応を行うためには、それぞれの地域の特性に応じた肝疾患診療連携拠点病院(拠点病院)、肝疾患専門医療機関、非肝臓専門医、行政機関や検診機関、医師会が一体となった連携体制の確立が必要です。

2019年には肝疾患医療機関対象に院内肝炎検査陽性者拾い上げ講習会を行い、県内医療機関での肝炎陽性者の拾い上げを円滑にし、受診、受療漏れに対する院内システム構築を訴えました。その結果84%の医療機関で取り組みが開始されました。

また、当院においても肝検査陽性者の受診、受療を促進するために、全職員対象の研修会を開催しました。その結果院内での肝検査陽性者に対する肝炎アラートによる未受診、未受療率の低下が確認されました。

このように様々な人々の間で生じる諸問題を的確に解決するには個人の力は非力ですが、コーディネーターを介したチームでの活動で対処が可能です。今後はチーム医療に不可欠な肝炎医療コーディネーターの育成が急務であり、肝炎相談支援センターはその育成を支援していきます。また肝炎検査およびその後のフォローを円滑にすべく、メディカルスタッフ、市町村検診部門担当者向けに肝炎コーディネーターレベルアップを目標にし、研修会を行っています。

4)おわりに

肝炎・肝臓の撲滅にむけて、肝疾患全般にわたる医療相談、啓蒙活動および情報発信を行っています。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/>(ホームページ)